

# 令和2年度事業報告書

令和2年4月1日から

令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム

## 1 事業の成果型事業

・今年度は新型コロナウイルス感染対策として、昨年度末3月から始めた、自立・生活訓練事業(以下、生訓)の在宅リハビリ、就労継続支援B型事業(以下、就B)の在宅ワークは、各区市と連絡を取りながら引き続き5月まで継続した。6月から午前みの通所を開始、7月と11月(生訓は10月も)に平常通所の時期もあったが、1月の第2回緊急事態宣言によりまた在宅に逆戻り。しかし2月から午前通所、3月半ばから平常通所を開始した。

・施設内の消毒を徹底し、通所時の検温・手指消毒、マスク着用を徹底する。3月半ばからは、コロナ感染対策用非接触型検温サーモグラフィカメラを出入口に設置。体温・手指消毒が簡単になり、チェックシートを置きマスク着用・体調も記録している。就Bのショップ夢市の入口にもお客様用に設置した。

・年度初めの4月に常勤職員の作業療法士と心理士が生訓に入職。トレーニーの在宅を気遣い、職員全員がカメラの前でいつもの朝の会のように、ラジオ体操と一人一人「体調と気分」、また在宅のトレーニーに声掛けをしたり、職員のミニ認知リハなども録画し、ホームページやドリームメールで紹介、メールを使わない方にはDVDにしてポストに投函。トレーニーから元気な反響があった。

・7月末、三輪書店の「地域リハビリテーション」編集室から依頼があり、「コロナ禍における多機能福祉サービス事業所調布ドリームの挑戦」という題名で、頑張っている在宅の現状を原稿にして送り、9月号に掲載された。

・また、木谷正道氏主催のZoomによるオンライン「みらくるTV」に4月～3月まで1年間ほぼ第一土曜日に出演した。内にこもらず外に向けて発信して欲しいという想いから、主に生訓プログラムの一環としてトレーニー・職員・コーチと共同で、プログラムや障害について紹介をした。1年で漸く要領が解ってきたが「みらくるTV」はYouTube公開が目標でもあったため、ドリーム内のYouTube公開の同意が得られず終了となった。しかしオンラインという新たな取組みと新しい人とのつながりは今後に活かしたい。

・プログラムにおいては、生訓はコーチの来所を控えめにして、職員の工夫による、机を合わせた大きめの卓球台で卓球や、散歩、SST、課外活動、体操などを新たに取り入れた。

就Bにおいては、9月入職職員による椅子ヨガを新たに開始、当事者会を再開、また来年度実施に向けて、仕事をより主体的に取り組めるやり方をトレーニーと共に検討、4月から実施予定。

・利用者の増減においては、生訓は1名が復職、1名が期間満了で計2名が退所。3名が期間満了でB型に移行、合計5名の減になるが、新たに10名のトレーニーが徐々に通所となり運営が安定してきた。

就Bは、1名が4月から東京障害者能力開発校入学、1名が就労で退所。1名が(就Bから開始の方)生訓を併用。1名が他就Bに週3日移行した。しかし生訓から3名の移行があったが、通所日数は減ってきている。

・恒例の「ドリームカンファ」は、慈恵医大第三病院リハビリ科の渡邊修教授にお出で頂き、10/7と2/3に2回行う事ができた。コロナ禍でも医療と福祉の貴重な話合いの機会を継続した。

・2月初旬、職員に向けて副理事長の和田敏子氏(世田谷ふらっと施設長)による、新型コロナ勉強会「通所施設における新型コロナウイルス感染防止対策」を実施。最新情報や実体験に伴うお話はコロナに立ち向かう勇気と柔軟な考え方を得ることができた。

・東京都の交付金。新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業(障害分)では、感染症対策の徹底のための消毒用アルコール、アクリル板、加湿器、掃除機、マスクなど購入。また障害福祉慰労金事業では職員全員に慰労金を配布できた。また就労継続支援事業所生産活動活性化支援事業においては、自動消毒噴霧器付非接触型検温サーモグラフィカメラ・夢市の机・棚・備品などを整備した。

・東京都共同募金会の地域配分は、毎年恒例のバス旅行に頂いたがコロナで旅行は中止となる。フィットネス用器具3台購入に変更可能となり、トレーニーの健康チェック・体力作りに役立っている。

・2月に調布市の障害者施設に対するPCR検査費用補助事業を受け職希望者44人に実施した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非も営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
を 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	<p>&lt;自立支援・生活訓練事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅リハビリを前年度3月から更に2ヶ月半継続。</li> <li>・様々な在宅用リハビリ材料を揃えて、それぞれに好きなものを選んだり、毎日の職員との電話で一緒に考えたり又その結果の報告を聞いたり、よりきめ細かい気持ちの交流が1日2回の電話の中で行われていた。</li> <li>・通所は7月と10・11月に平常通所が可能な時期があったが、それ以外は密を避け午前通所と在宅リハビリを取り入れた。</li> <li>・コーチの来所を控えたため、職員の工夫で、机を合わせたドリーム卓球・散歩・SST・課外活動などコロナに合わせた新プログラムを取り入れた。木谷正道氏代表のZoom「みらくるTV」出演をプログラムに1年間取り入れた。</li> </ul>	毎月の予定表に基づく	活動センター	634人 2.6人 ×244日	高次脳機能障害者 1969人 8.07人 ×244日	49,554
	<p>&lt;就労継続支援B型事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅ワークを前年度3月から更に2ヶ月半継続。</li> <li>・通所は7月と11月に平常通所が可能な時期があったがそれ以外は密を避け午前通所と在宅ワークを併用した</li> <li>・9月から椅子ヨガプログラムを開始、当事者会を再開4月に向けて仕事をより主体的に取り組むやり方を 트레이ニー・職員で検討。</li> <li>リサイクルショップ夢市も閉店していたが、7～9月＝10-15時開店、11～12月＝10-16時開店、1月は閉店、2-3月＝10-15時開店した。</li> <li>・ナスバ(NASVA)の受注郵送作業もコロナで病院が逼迫し殆ど稼働できなかった。</li> <li>・調布市メール便作業継続</li> <li>・2名のトレーニーが就職内定し5月採用決定をしている</li> <li>・就Bの補助金により夢市等の備品を整備した。</li> </ul>	毎月の予定表に基づく	活動センター 市役所 調布図書館 教育センター	829人 3.4人 ×244日	高次脳機能障害者 2605人 10.68人 ×244日	
	<p>合同実施事項</p> <p>調布市補助金によりPCR検査2月実施 44人(全員陰性)</p>		活動センター	9人	35人	

高次脳機能障害者とその家族への相談及び生活支援事業	電話及び来所等による相談及び支援	随時	活動センター	6人	高次脳機能障害者及び家族 20人	10
	福祉関係者見学対応	随時	活動センター	10人	福祉関係者 20人	
	当事者会の運営 今年度は蜜を避け外す 11月から就Bで再開	随時	活動センター	当事者 5人	高次脳機能障害者 50人	
	家族会の運営 家族会代表：山田伸子氏	・第3日曜日 随時	活動センター	家族 18人	家族 48人	
高次脳機能障害に関する普及啓発事業	ドリームサロン延期					280
	月刊の「ドリームごよみ」等を関係機関に配布と郵送及びネット配信・ホームページの更新	毎月	市役所、福祉センター、教育会館	60人	一般市民・当事者・家族・医療・福祉関係者 1800人	
	毎月、ドリームごよみやイベント案内などが飛田給自治会の回覧板で回覧。	毎月	飛田給1～3丁目 1170世帯 地域自治会長宅	60人	一般市民 2340人	